

子ども読書活動推進のための取組事例

1 特色ある取組事例

読書意欲を高める工夫	四国中央市立寒川小学校
【取組内容】 <p>子どもたちの読書意欲を高めるため、以下のような取組を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・朝の時間に地域ボランティア9名が、年間40回以上読み聞かせを実施。・学校図書館の入り口とカウンターに、新着本や図書委員おすすめの本をディスプレイし、ポップを付けて紹介。・1人1台端末を活用して、図書委員がおすすめの本を紹介する「図書館だより」を作成し各教室に掲示。・校長室前の廊下に「校長先生おすすめの本コーナー」を作り、毎月一冊紹介するとともに、昼休みに校長による読み聞かせを実施。	
【成果】 <ul style="list-style-type: none">・本を手に取りたくなる図書室や校長室前等の環境づくりと、地域ボランティアによる継続した読み聞かせにより、児童の読書意欲が向上している。	
地域・保護者ボランティアとの連携	松山市立味生小学校
【取組内容】 <p>地域・保護者ボランティア「ブックママ」と連携して、読み聞かせ、紙芝居、ブックトーク等を、年間を通じて各学年で実施している。また、令和5年度からはコミュニティ・スクールの取組として「ブックママ」の活動を行うことで、自分の子どもが卒業しても継続して学校との連携が可能になるようにしている。</p>	
【成果】 <ul style="list-style-type: none">・読み聞かせ、ブックトーク等を低学年から継続して行うことで児童の読書習慣が確立され、読書量が増えるとともに選書の幅も広がっている。	
地域に開かれた学校図書館運営	松山市立高浜中学校
【取組内容】 <p>参観日や学校行事、懇談会等の際に、保護者や地域の方々に図書館を開放し、図書の貸出を行っている。保護者は2冊まで借りることができ、返却については、保護者が直接来校するか、生徒を通じて行っている。</p> <p>また、「親子で読もう！高中の本」と題しておすすめの本も紹介している。</p>	
【成果】 <ul style="list-style-type: none">・地域や保護者へ図書館の開放が周知され、開かれた学校図書館となっている。・家庭と学校のつながりの中で、親子で読書に親しむ生徒が育ってきている。	

子ども読書活動推進のための取組事例

読書マラソン	四国中央市川之江図書館・三島図書館・土居図書館・おやこ図書館
<p>【取組内容】</p> <p>○チャレンジ！こども読書マラソン（市内4図書館）</p> <p>エントリーした児童に読書通帳を渡し、読んだ本を記入してもらう。エントリーしたらマラソンボードに自分のコマを貼り、20冊読み進めるごとにコマを移動して、自分の進度が分かるように視覚化している。100冊をゴールとするが、途中でも冊数に応じて読書通帳にシールを貼ったり、おすすめの本のポップを書いてももらったりしている。図書館の本に限定せず、ゴールの100冊を目指してそれぞれの楽しみ方で継続できるよう働きかけている。</p> <p>意欲が持続するように、ゴールした児童は記念品をもらって2周目以降もチャレンジすることができるようにしている。また、令和5年度から、エントリー時に掲載を希望した児童の声が、市報や図書館だより、ケーブルテレビで紹介されるような取組を開始している。</p> <p>○わくわくバッグをかりよう（川之江図書館）</p> <p>こども読書マラソンの期間中、「読書マラソンに参加した児童のおすすめの本」を展示するとともに、翌年のこどもの読書週間中に、その本を「わくわくバッグ」として中身の見えない袋に入れて貸し出している。</p>	
<p>【成果】</p> <p>○チャレンジ！こども読書マラソン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組開始から4年となるが、毎年、設定した目標値を上回る参加者があり、取組が浸透しつつある。 ・令和5年度（11月末時点）：エントリー552名、100冊達成113名 <p>○わくわくバッグをかりよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のおすすめの本やポップを書いた本を誰かに読んでもらいたいと、楽しみにしながら参加する児童が多い。 ・子どもの読書週間に100袋程度を準備しているが、親子で中身を想像しながら選ぶなど好評を得ている。 	
「菊中生に読ませたい本100」	今治市立菊間中学校
<p>【取組内容】</p> <p>保護者が子どもに読ませたい本をリストアップし、そのうち100冊を購入して図書室内に「菊中生に読ませたい本100」コーナーを設置している。</p> <p>コーナーを設置することで、生徒が気軽に手に取って読めるようにしている。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を利用する生徒数、貸出冊数が増加した。 ・昨年度に比べ、読書の習慣が定着する生徒の割合が増えた。 	

子ども読書活動推進のための取組事例

生徒の意見を反映した図書購入	内子町立内子中学校
<p>【取組内容】</p> <p>新しい図書の購入にあたって、図書委員が中心となり選書会を行っている。書店お薦めの本を手に取り、読みたい本、読んでもらいたい本を選書し、購入している。また、図書室には常時リクエストボックスを設置し、購入希望を募っている。これに基づいて、図書委員と担当教諭で書店へ直接購入に行ったり、カタログから選定したりするなどして、購入予算の35%程度は生徒の意見が反映された図書を購入している。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入図書の選定に生徒が関わることで、生徒の興味のある図書を入れることができ、図書室の利用も増えている。 	

地域の書店との連携	愛媛県立南宇和高等学校
<p>【取組内容】</p> <p>地域の書店に、「南高ヒット BOOKS」というコーナーを設置してもらい、月ごとに図書委員が図書の紹介とポップの掲示を行っている。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コーナーに取り上げた本がよく売れているという声を聞くなど、地域との連携が深まっている。 図書委員が書店にポップの掲示に行く際、図書室に入りたい本を探し、定期的に購入しており、図書室で購入する本の選定にも役立っている。 	

2 学校と公立図書館との連携取組事例

電子図書館と1人1台端末の連携	四国中央市
<p>【取組内容】</p> <p>令和4年10月から、市内小中学校の全児童・生徒に電子図書館アカウント・パスワード票を配付し、Chromebook ポータルサイト上に入り口「紙のまち e-books」を開設し、朝の読書時間等で活用している。</p> <p>児童書を整備するにあたり、各小中学校のジュニア ICT リーダーがフォームによるアンケート調査を行い、上位185点を選定。市内児童生徒向けにパンフレット「四国中央市電子図書館のつかいかた」を配付し、利用促進を図っている。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間に紙の本だけではなく、Chromebook を使って読書をすることもできるようになり、読書環境がより充実した。 児童が選書に加わることで子供たちが読みたい本を揃えることができ、読書に興味を持ってもらえるきっかけとなった。 	

子ども読書活動推進のための取組事例

電子図書館と1人1台端末の連携	宇和島市
<p>【取組内容】</p> <p>令和4年4月から、市内小中学校の全児童・生徒に対し、図書館利用者カードの申込案内と電子図書館の利用案内を配布し、希望者に利用者カード（電子図書館ID共通）を交付するとともに、1人1台端末のデスクトップに宇和島市電子図書館のアイコンを貼付している。</p> <p>電子図書館の利用案内配布時期に合わせて、児童書の電子書籍の充実に力を入れた。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍コンテンツ数（令和4年度末時点）：2,560冊（うち児童書は1,025冊）。 ・利用者数（令和4年度）：延べ4,470人 ・貸出数（令和4年度）：29,835冊 	
ブックトーク・ビブリオバトル	愛媛県立今治北高等学校
<p>【取組内容】</p> <p>令和2年に県立図書館の協力を得て、医療をテーマにブックトークを行った。また、平成26年からほぼ毎年、希望生徒を募り、作家を招いて行われる市立図書館主催のビブリオバトルに参加したほか、1学期に各クラスでのビブリオバトル、12月に図書委員を中心としたビブリオバトルを開催している。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークは、将来に対するイメージを膨らませる良い機会となった。 ・ビブリオバトルには、生徒たちが楽しんで参加しており、自分では選ばない本の紹介を聞いて読書の幅を広げるとともに、発表を行い、自分の考えを相手に伝えることを練習する機会になっている。 	
学校図書館支援員派遣事業	東温市立図書館
<p>【取組内容】</p> <p>市内の各小中学校において、授業内容に関連したブックトークや読み聞かせを行うほか、選書及び廃棄処理、図書館改装（図書館づくり・展示・掲示）、整備（配架）等の支援を行っている。夏休みから年度末にかけて各学校3回実施し、学校図書館と市立図書館の連携強化に取り組んでいる。</p> <p>各学校からの依頼はブックトークが最も多く、次に図書整備等、図書館づくり（展示・掲示）となっており、ブックトークで使用する本については、約20～30冊を準備するため、事前に「何年生・使用目的・どのような本・何冊必要か」と支援員に聞き取り、市立図書館司書が選書を行っている。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館車の学校巡回日に合わせて本を運ぶことで、教員の負担軽減につながっている。 ・ブックトーク以外の授業で使用する本の選書及び貸出も増加している。 	

子ども読書活動推進のための取組事例

3 親子が共に取り組む事例

ファミ読トーク	内子町図書情報館
<p>【取組内容】</p> <p>申込内容のテーマに合わせて図書館職員が選書を行い、児童館や子育て支援センターにおいて、親子を対象に本を紹介している。</p> <p>大人（親）が、読み聞かせの大切さを実感し、家族ぐるみで本に親しみ、楽しく過ごすことで、親子読書（読み聞かせ）の定着と親子のコミュニケーションを図ることを目的としている。</p>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子読書の大切さや年齢にあった本の紹介ができ、施設と連携して本の貸出ができた。 ・図書館でファミ読トークを実施することで、子育て中の図書館の利用の促進にもつながった。 	

うちどく（家読）	大洲市立図書館
<p>【取組内容】</p> <p>家族で同じ本を読み、その本について話し合う「うちどく（家読）」を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという試みで、「うちどくノート」に読んだ本を記録していくことを勧めている。また、以下の事業を毎年度実施して啓発に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うちどくチャレンジ！努力賞」【うちどくノート記録完了者表彰】 ・「うちどくチャレンジ！最多賞」【部門別うちどくノート最多冊数記録完了者表彰】 ・「うちどくチャレンジ！コンテスト」【応募作品（図書3冊分おすすめシート）を部門別に審査】 <p>図書館司書、ボランティア、教員が協力して作成した年齢層別のおすすめブックリストを発行し、ブックリストに紹介した本を集めた「うちどくコーナー」を設けているほか、要望があれば、出張「うちどく実践講座」を行うなどして、推進を図っている。</p>	
<p>【成果】</p> <p>○各事業の受賞者（令和4年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うちどくチャレンジ！努力賞」 82名 ・「うちどくチャレンジ！最多賞」 4名 ・「うちどくチャレンジ！コンテスト」 最優秀賞5名、優秀賞5名、佳作19名 (応募総数327点→学校審査104点→1次審査29点→最終審査10点) <p>表彰式：令和5年2月18日（土）最優秀・優秀賞受賞者とその家族が対象 入賞作品展示：令和5年2月18日（土）～3月5日（日）その後分館巡回</p> <p>○出張「うちどく実践講座」…市内公民館分館の親子体験学習会にて1回開催 (令和4年5月28日、地区の親子7組17名が参加)</p>	

子ども読書活動推進のための取組事例



校長先生おすすめの本コーナー（四国中央市立寒川小学校）



ブックママによる読み聞かせ（松山市立味生小学校）



地域に開かれた学校図書館（松山市立高浜中学校）



わくわくバッグをかりよう（川之江図書館）



うちどくコーナー（大洲市立図書館）



地域の書店との連携（南宇和高等学校）

